

延暦寺

延暦寺は、最澄（767-822）という僧によって 788 年に創建され、仏教の天台宗の総本山となっています。また延暦寺は、日本仏教の「母山」としても知られています。延暦寺は、京都、大津、そして宇治の多くの寺をまとめて登録されたユネスコの世界遺産の一部となっています。

境内には、大津の比叡山山頂の森が約 1,700 ヘクタール広がっています。延暦寺には、最も多かった時で約 3,000 もの建造物がありました。しかし、1571 年には、延暦寺が対立した武将の織田信長（1534-1582）によって境内の全てが焼き払われました。今日の延暦寺の境内には、150 のお堂やその他の建造物があります。境内は東塔、西塔、そして横川の 3 つの主な区域に分かれています。

東塔には、延暦寺の本堂である根本中堂があります。根本中堂は国宝に指定されており、その中には延暦寺の不滅の法灯も灯されています。788 年に灯されて以来、一切途切れたことがありません。西塔にあるにない堂は、全く同じ形をした 2 つのお堂が廊下でつながったもので、僧たちはここで様々な修行を行います。

横川には元三大師堂があります。元三大師堂は、元三大師としても知られるかつての延暦寺の住職の良源（912-985）に捧げられたお堂です。良源は、今日では日本の多くの神社や寺で人気を集める御神籤の考案者であると言われています。